

土着天敵を温存した有機 JAS 規格に合うナス害虫防除体系の確立

1 中核機関・研究総括者

埼玉県農林総合研究センター 根本 久

2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

ナス栽培では、夏期に発生する害虫に対処でき有機 JAS 規格に適合した栽培法が求められている。このため、土着天敵の害虫制御能力や土着天敵温存法、天然系殺虫剤の土着天敵に対する悪影響の有無を調査し、土着天敵や天然系殺虫剤を活用した防除体系を確立する。

4 研究内容及び実施体制

- ① ナス圃場における土着天敵の害虫制御能力に関する研究（埼玉県農林総合研究センター、瀬山農園）
土着天敵の害虫制御能力を調査し、保護すべき土着天敵種を明らかにする。
- ② 天敵類に悪影響がない天然系殺虫剤の選抜（埼玉県農林総合研究センター、(独)農業環境技術研究所、(株)エスコ、瀬山農園）
天然系殺虫剤の土着天敵類への影響を調査し、悪影響が無いものを選抜する。
- ③ 土着天敵に悪影響のない天然系殺虫資材を組み入れたナス生産の確立（埼玉県農林総合研究センター、瀬山農園）
害虫及び天敵個体群発生の結果を基に、天然系殺虫剤の処理時期を決定する。
- ④ 有機 JAS 規格適合防除体系と慣行防除体系の比較（埼玉県農林総合研究センター、(独)農業環境技術研究所、瀬山農園）
生産物の収量、品質及び消費者評価について調査解析する。

5 目標とする成果

土着天敵と天然系殺虫資材を組み合わせた有機 JAS 規格に適合した防除体系が確立される。これにより、有機農法で重要な輪作体系にナスを組み込むことが可能となつて、作目選択の自由度が大きくなり、当該地域への全野菜作の有機 JAS 規格適合栽培の普及拡大と定着化が望め、地域全体として野菜の有利販売による経済効果が期待される。